

中芸高校だより

平成29年度
第1号



「ひよこ」のころ 校長 前田仁子



高知県では、一般に入学式には桜が散っているのが普通で、イラスト集などで桜が入学式の花になっているのが不思議で仕方ありませんでした。しかし、今年の春は、異例の天候で、満開を待ち望みながら十一名の新入生を迎えることになりました。ピアサポートホームの良いところを活かし、また学

年でも仲良く、今年も新入生の皆さん全員が元気で学校生活を送れるようにと願っています。上級生も、新入生にとって憧れの存在になれるよう、それぞれが得意の分野で努力してください。さて、入学式の式辞でも申し述べましたが、中芸高校は、第二次世界大戦後の昭和二十三年、羽根村を含めた中芸六か町村の住民の皆様の熱い志によって生まれました。来年度には開校七十周年という節目を迎え、これまでの中芸高校は、地域にとつてどのような学びの場であったらうと、過去に思いを馳せながら過ごすことも多くなりました。その中で、最近楽しみにしているテレビ番組が、NHKの連続テレビ小説(と近頃は言わなくなっている気もしますが)「ひよこ」です。(放送がちょうど登校時にあたるので、生徒の皆さんは見られないかも...)

このドラマは、東京オリンピックが行われた一九六四年(昭和三十九年)、奥茨城村(架空の村です)で育った少女矢野みね子(いたしかたない理由で東京に就職し、成長していくお話です。四月末現在、みね子は高校三年生。上京直前で、まだ、セラー服の下にズボンをはいて高校に通っています。時代は高度成長期の最中ですが、みね子の暮らす地域にはまだその恩恵が遠く、父親は出稼ぎ先の東京で失踪し、奥茨城の土地で母親と祖父が米や野菜を作っています。この時代には農業だけで生活していくことが難しくなり、みね子の家庭のように主たる働き手は都会に出稼ぎに出て、残る家族で田畑を守ることも増えていました。いわゆる「三ちゃん農業」(三ちゃん、ばあちゃん、かあちゃん)の三人で行うため)という言葉が久しぶりに思い出してしまいました。有村架純さん演じる「みね子」さんの高校時代が、中芸高校の歴史に重なり、いつも興味深く視聴しています。

昭和三十九年の中芸高校は、普通科の全日制高校で、生徒数は六百五十二名でした。生徒の出身地域の内訳は、羽根(五十四名)、奈半利(百四十三名)、田野(百六十五名)、北川(八十九名)、馬路(三十一名)、安田(百四名)、その他(六十六名)となっています。みね子と同年の高校三年生は百九十二名で、卒業後は就職した人が百三十名、進学組は短大を含めても二十八名しかいません。みね子やその同級生と同じように、高校を出るとすぐに社会人になっていくことがわかりました。この世代の方々にとつて、高校時代はどんなものであったでしょう。卒業アルバムを見ると、この年に田野中学校校舎を買収、改築して現在と同じ場所に二階建の校舎が写っています。運動場の南側にも校舎があったようですが、各学年四クラスの地方

の立派な中規模校です。さぞや活気のある学校生活だったことでしょう。部活動も多く、どの部もたくさんさんの部員たちがいて、いろいろな練習していたのか不思議になるほどです。修学旅行は横浜や東京、鎌倉、日光、「スキーをしたい」というキャプションがあるので多分スキーはしていない地名不明の白銀の地域など、かなり遠方まで出かけています。航空機も使わずに時間がずいぶんかかったらうな、でもそれだけに思い出に残ったらうなと思うと、こちらまで微笑ましい気分になります。

そして、「ひよこ」でも行われていた「田舎の聖火リレー」が、なんと中芸でも行われていたことがわかりました。多分本校の運動場から(間違っていたらすみません)、田野の街中まで、体操服姿の男子生徒が坊主頭で鉢巻をしめて、トーチを高く掲げて走りぬけている様子が何枚もあり、最後は役場(?)に設けられた聖火台らしきもの前で実行委員長(町長?)らしき人と最終ランナーが握手をしているようです。沿道にはたくさんの方々が応援に立ち、この日の田野町の賑わいを今でも覚えていらっしゃる地域の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

時は移り、中芸の地域も、中芸高校も変わりました。賑わいは遠くなりました。したが、本校をとりまく岡地の美しい景色や、生徒たちの素朴で優しい気質は今も同じです。近年、高等学校や大学には地域貢献が求められるようになり、中芸高校の生徒もイベントや清掃活動に参加することが増えてきました。学校のPR隊である「よみがえる二十三土」の中芸よさこいの後半では、変わらぬ校歌がいつまでも鳴っています。中芸地域唯一の高等学校として、懐かしく思われるとともに、今後も親しまれる学校でありたいと思っています。

昨年の「中芸学」では、「中芸高校の今と昔」を調べたグループもありました。私にとつても、調べれば調べるほど中芸高校の歴史は面白く、様々なことを考えさせてくれます。また、皆さんの中には、中芸高校の卒業生が親戚や家族にいる人も多いと思います。ぜひ、私のような他の地域から来た人に教えてあげられるように、お話をうかがってくださいます。そのことが、中芸高校の地域貢献の大切な一歩になるような気がしています。

「お父さん、高校に通わせてくれて、ありがとう。みね子は幸せでした。」というナレーションで、みね子さんの高校生活は終わりました。触(さわ)るとほどこけそうな卒業アルバムの中の、一人ひとりの卒業生の皆さんも、そのような思いで中芸高校を後にされたであろうと確信しています。現在中芸高校に通ってきける生徒の皆さんにも、同じような気持ちで晴れの日を迎えてほしいと思いつつ、教職員一同、努力をしていく所存です。本年度も、保護者や地域の皆様には、ともに生徒の皆さんの成長を支えていただきますよう、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。



「中芸の聖火リレー」(卒業アルバムより)

平成二十九年入学式

四月七日に入学式が行われ、昼間部十一名、夜間部五名の新入生が堂々とした姿で入場しました。新入生を代表して、近藤壮流さんが高校生活に向けての希望や期待、そして強い決意を宣誓しました。新たな扉を開いた新入生には、これからは楽しいことだけでなく、厳しい訓練も待ち受けているかもしれないと、成長していつか乗り越えて大きく



対面式

四月十日に対面式と、部活動紹介が行われました。先輩達を前に、新入生の少し緊張気味な表情も、歓迎の言葉を受けて和らいだようでした。また、部活動紹介と、伝統ある中芸よさこいの華麗な踊りも行われ、あまりの迫力に見惚れていました。



宿泊研修に行ってきました

四月十一日(火)、十二日(水)の二日間、香美市香北町の「香北青少年の家」にて、新入生宿泊研修を行いました。一日目は、仲間づくりのための「心の冒険教育」、「学校オリエンテーション」、「パーベキュー」を、二日目は「組写真コンテスト」を行いました。

「心の冒険教育」では、青少年の家の指導員である「セブン」さんと「大五郎」さんの指導の下、名前当てゲームやボール運びなど、皆で協力しあうレクリエーションを行いました。初めは緊張していた一年生たちもレクリエーションを通じて仲良くなり、その後のパーベキューも協力して行うことができました。二日目は二人一組で「新」をテーマに写真を撮影しその後発表会を行いました。普段の生活から離れ、初めて会うメンバーと共に二日間を過ごしたことは、生徒たちにとって楽しかった反面、緊張感の中で非常に大きなエネルギーを使ったことと思います。しかしながら、この二日間が異なる中学校から来た生徒たちが次第に打ち解けあっていく姿や、生徒それぞれ個性や行動を見ることができ、教員側にとつて大変有意義な研修であったと感じています。生徒たちにとつても、新たな学校生活にスムーズに入っていく良いきっかけになったことと思います。

